

平成 25 年度予算概算要求の主要事項（厚生労働省 PR 版）抜粋

2 がん対策

392億円(275億円)

(1) がんに対する質の高い医療提供体制の構築(特別重点) 129億円

①がんの早期発見【新規】 116億円

死亡率が上昇している女性特有のがんの早期発見のため、子宮頸がん検診について、細胞診に加えて新たに HPV 検診を 30 代の女性に実施するなど、特に罹患率の高い年代の女性の乳がん・子宮頸がん検診を重点的に実施する。

②がんと診断された時からの緩和ケアの推進【新規】 8.2億円

平成 24 年 6 月に閣議決定した「がん対策推進基本計画」で、「診断時からの緩和ケアの推進」が重点課題に掲げられていることに基づき、がん診療連携拠点病院で、がん性疼痛の緩和に関する相談支援事業や地域性に配慮した強固な緩和ケア診療体制を構築するための緩和ケアセンターの整備を行う。

また、同センターで、がん性疼痛による緊急入院に対応するための緩和ケア病床を確保する。

③がん患者などの治療と職業生活の両立【新規】 5.1億円

「がん対策推進基本計画」などに基づき、就労継続などを希望するがん患者に対し、がん診療連携拠点病院などの相談支援センターで、「治療と職業生活の両立」に関する各種相談支援や適切な情報提供を行うため、相談支援体制や就労支援機関などとの連携の強化を図る。

また、がん診療連携拠点病院で、がん患者を取り巻く就労問題の実態を把握・分析し、ニーズを明らかにするための調査を実施し、がん患者・医療従事者などに対する情報提供の在り方について提言を行う。

※ 厚生労働省版「提言型政策仕分け」（平成 24 年 6 月～7 月実施）の提言関連

(2) 小児がん対策の推進【一部新規】 4.8億円

「がん対策推進基本計画」に基づき、小児がんの診療や緩和ケアを行う医療従事者の育成と小児がん患者への相談支援や療育環境を確保するためのプレイルームの運営などを推進するとともに、小児がん拠点病院を統括し、小児がん患者や臨床試験の情報集約、小児がんに関する情報発信、診療実績などのデータベースの構築、コールセンターなどによる相談支援などの機能を担う中核的な機関として、小児がんセンター（仮称）を整備する。

(3)がん治療薬創薬研究の推進(特別重点)

50億円

平成24年6月に決定した「医療イノベーション5か年戦略」に基づき、難治性がんや小児がんを含む希少がんなどを中心に、抗体医薬などの分子標的薬や核酸医薬、がんペプチドワクチンなどの創薬研究に関して、適応拡大も含め、国際水準の非臨床試験や医師主導治験を強力に推進する。また、早期診断を可能とする革新的な診断方法(診断薬など)の実用化へ向けた研究を推進する。

(4)禁煙対策の強化【新規】

1.6億円

「がん対策推進基本計画」や「健康日本21(第2次)」(※)で、たばこをやめたい人を支援して喫煙率を平成34年までに12%まで低下させることを目標としていることに基づき、がん診療連携拠点病院に「たばこ相談員」を配置し、禁煙に関する電話相談や禁煙に係る最寄りの医療機関などの情報提供を行う(たばこクイットライン)。

※「健康日本21(第2次)」:国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な事項を示し、平成25年度から34年度までの国民健康づくり運動を推進するもの。

平成25年度がん対策予算概算要求の概要

平成25年度概算要求額 392億円(平成24年度予算額 275億円)

基本的な考え方

- 平成19年4月に施行された「がん対策基本法」及び同年6月に策定され、平成24年6月に見直しがされた「がん対策推進基本計画」を踏まえ、総合的かつ計画的にがん対策を推進する。

1. 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門的に行う医療従事者の育成 34億円(30億円)

(1)がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	0.5億円(0.1億円)
新規 ・がん医療に携わる看護研修事業	0.3億円(一億円)
新規 ・医科歯科連携事業	0.2億円(一億円)
(2)がん診療連携拠点病院の機能強化	28.4億円(29.6億円)
(3)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組	5.1億円(4百万円)

2. がんと診断された時からの緩和ケアの推進 13億円(5億円)

(1)がんと診断された時からの緩和ケアの推進	11.3億円(3.4億円)
①新規 ・がん診療連携拠点病院機能強化事業(がん性疼痛緩和推進事業)	4.8億円(一億円)
①新規 ・がん診療連携拠点病院機能強化事業(緩和ケアセンター整備事業)	3.5億円(一億円)
(2)在宅医療・介護サービス提供体制の構築	1.6億円(1.6億円)

3. がん登録の推進とがん医療に関する相談支援及び情報提供体制の整備 9.3億円(9.5億円)

改 ・都道府県健康対策推進事業(緩和ケア研修を除く)	7.5億円(8.2億円)
改 ・国立がん研究センター委託費	1.3億円(0.8億円)
・がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業	0.5億円(0.5億円)

4. がん予防・早期発見の推進 184億円(124億円)

(1)がん予防	30.1億円(14.1億円)
新規 ・がん診療連携拠点病院機能強化事業(たばこクイットライン事業)	1.6億円(一億円)
(2)がんの早期発見	154.1億円(110.0億円)
①新規 ・女性のためのがん検診推進事業	116.0億円(一億円)
改 ・がん検診推進事業	33.1億円(104.9億円)

5. がんに関する研究の推進 141億円(102億円)

○ がんによる死亡者の減少、すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上を実現するためのがん対策に資する研究を着実に推進する。

・第3次対がん総合戦略研究経費	28.4億円(37.1億円)
・難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究経費	75.9億円(28.6億円)
① うち がん治療創薬研究関係	50.0億円(一億円)
・がん臨床試験基盤整備事業	1.5億円(1.5億円)

6. 小児へのがん対策の充実 4.8億円(4億円)

新規 ・がん診療連携拠点病院機能強化事業(小児がんセンター(仮称)基盤整備事業)	1.0億円(一億円)
・がん診療連携拠点病院機能強化事業(小児がん拠点病院機能強化事業)	2.5億円(2.5億円)
・小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修等事業	0.3億円(0.3億円)
・小児がん拠点病院整備費	1.0億円(1.0億円)

7. がん患者の治療と職業生活の両立 5.5億円(一億円)

①新規 ・がん診療連携拠点病院機能強化事業(がん患者の就労に関する相談・情報提供事業)	3.2億円(一億円)
①新規 ・がん患者の就労問題に関する実態分析事業	0.6億円(一億円)

① 「日本再生戦略」特別重点要求

がんに関する相談支援について

平成24年9月5日

健康局がん対策・健康増進課

基本計画における相談支援・情報提供

第4 分野別施策と個別目標 がんに関する相談支援と情報提供

(現状)

医療技術の進歩や情報端末の多様化に伴い多くの情報があふれる中、患者やその家族が医療機関や治療の選択に迷う場面も多くなっていることから、これまで拠点病院を中心に相談支援センターが設置され、患者とその家族のがんに対する不安や疑問に対応してきた。

また、国立がん研究センターでは、様々ながんに関連する情報の収集、分析、発信、さらに相談員の研修や各種がんに関する小冊子の作成配布等、相談支援と情報提供の中核的な組織として活動を行ってきた。さらに、学会、医療機関、患者団体、企業等を中心として、がん患者サロンや患者と患者と同一ような経験を持つ者による支援（ピア・サポート）などの相談支援や情報提供に係る取組も広がっている。

しかしながら、患者とその家族のニーズが多様化している中、相談支援センターの実績や体制に差がみられ、こうした差が相談支援や情報提供の質にも影響していることが懸念されている。また、相談に対応可能な人員に限られる中、最新の情報を正確に提供し、精神心理的にも患者とその家族を支えることのできる体制の構築などの課題が指摘されている。

(取り組むべき施策)

国・地方公共団体・拠点病院等の各レベルでどのような情報提供と相談支援をすることが適切か明確にし、学会、医療機関、患者団体、企業等の力も導入したより効果的・効果的な体制構築を進める。

拠点病院は、相談支援センターの人員確保、院内・院外の広報、相談支援センター間の情報共有や協働体制の構築、相談者からフィードバックを得るなどの取組を実施するよう努め、国はこうした取組を支援する。

拠点病院は、相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供するよう努める。

がん患者の不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者もがん患者に対する相談支援に参加することが必要であることから、国と地方公共団体等は、ピア・サポートを推進するための研修を実施するなど、がん患者・経験者との協働を進め、ピア・サポートをさらに充実するよう努める。

国立がん研究センターは、相談員に対する研修の充実や情報提供・相談支援等を行うとともに、希少がんや全国の医療機関の状況等についてもより分かりやすく情報提供を行い、全国の中核的機能を担う。

PMDAは、関係機関と協力し、副作用の情報収集・評価と患者への情報提供を行う。

(個別目標)

患者とその家族のニーズが多様化している中、地方公共団体、学会、医療機関、患者団体等との連携の下、患者とその家族の悩みや不安を汲み上げ、がんの治療や副作用・合併症に関する情報も含めて必要とする最新の情報を正しく提供し、きめ細やかに対応することで、患者とその家族にとってより活用しやすい相談支援体制を早期に実現することを目標とする。

(その他ががんの相談支援と情報提供に関連する取り組みべき施策)

1. がん医療

(1) 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進

○ チーム医療とがん医療全般に関すること

患者とその家族の意向に応じて、専門的な知識を有する第三者の立場にある医師に意見を求めることができるセカンドオピニオンをいつでも適切に受けられ、患者自らが治療法を選択できる体制を整備するとともに、セカンドオピニオンの活用を促進するための患者やその家族への普及啓発を推進する。

(3) がんと診断された時からの緩和ケアの推進

拠点病院を中心に、医師をはじめとする医療従事者の連携を図り、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアへの患者とその家族のアクセスを改善するとともに、個人・集団カウンセリングなど、患者とその家族や遺族などがいつでも適切に緩和ケアに関する相談や支援を受けられる体制を強化する。

拠点病院をはじめとすると入院医療機関が在宅緩和ケアを提供できる診療所などと連携し、患者とその家族の意向に応じた切れ目のない在宅医療の提供体制を整備するとともに、急変した患者や医療ニーズの高い要介護者の受入れ体制を整備する。

(6) その他

〈希少がん〉

患者が安心して適切な医療を受けられるよう、専門家による集学的医療の提供などによる適切な標準的治療の提供体制、情報の集約・発信、相談支援、研究開発等のあり方について、希少がんが数多く存在する小児がん対策の進捗等も参考しながら検討する。

がんの教育・普及啓発

患者とその家族に対しても、国や地方公共団体は引き続き、拠点病院等医療機関の相談支援・情報提供機能を強化するとともに、民間団体によって実施されている相談支援・情報提供活動を支援する。

がん患者の就労を含めた社会的な問題

がん以外の患者へも配慮しつつ、がん患者・経験者の就労に関するニーズや課題を明らかにした上で、職場でのがんの正しい知識の普及、事業者・がん患者やその家族・経験者に対する情報提供・相談支援体制のあり方等を検討し、検討結果に基づいた取組を実施する。

相談支援センターの拠点病院における位置付け

3 情報の収集提供体制

(1) 相談支援センター

①及び②に掲げる相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、当該部門において、アからキまでに掲げる業務を行うこと。なお、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報すること。

① 国立がん研究センターによる研修を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置すること。

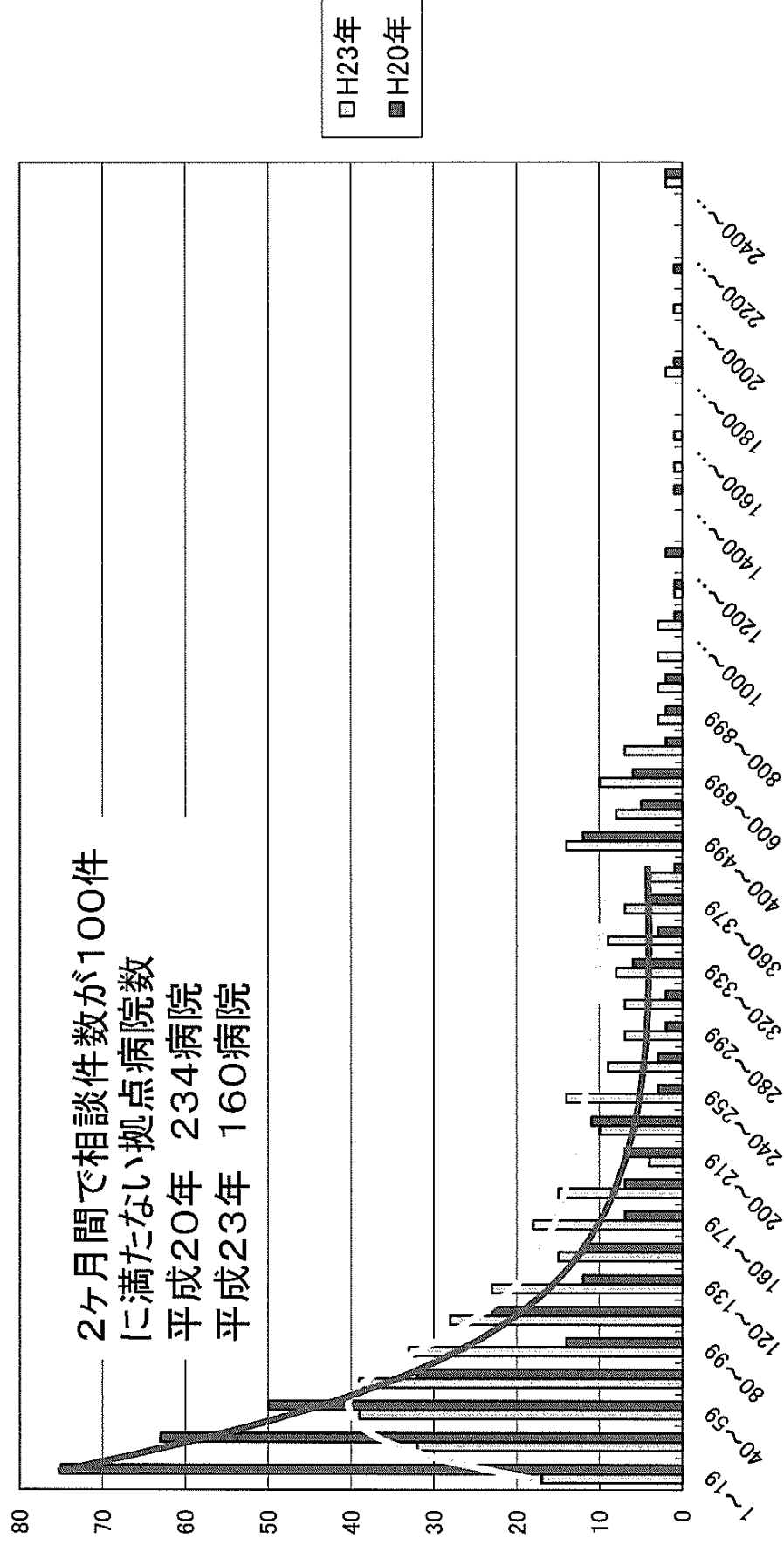
② 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備すること。また、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組むこと。

<相談支援センターの業務>

ア がんの病態、標準的治療法等がん診療及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供
イ 診療機能、入院・外来の待ち時間及び医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
エ がん患者の療養上の相談
オ 地域の医療機関及び医療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
カ アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
キ HTLV-1関連疾患であるATLに関する医療相談
ク その他相談支援に関すること

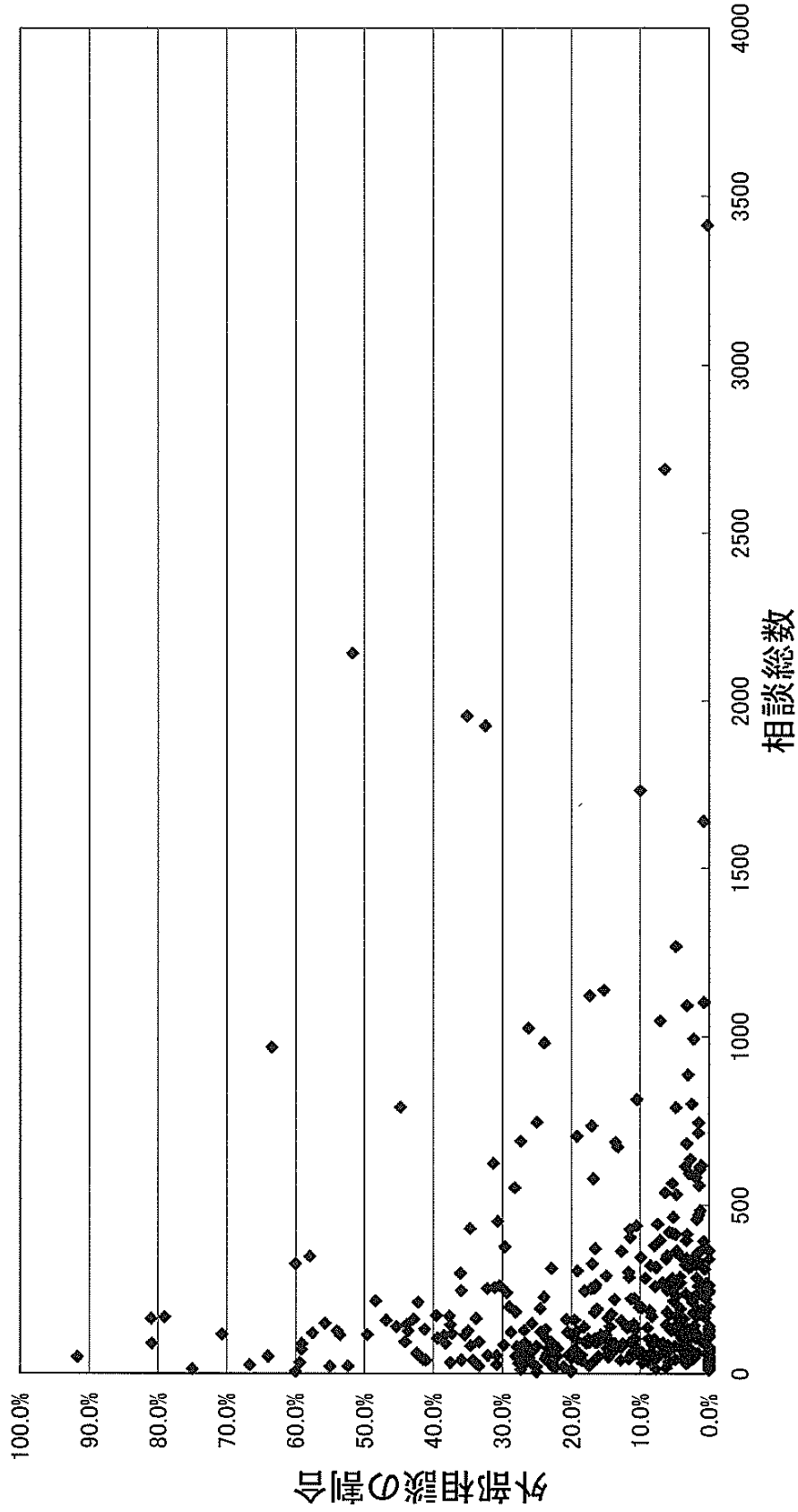
相談支援センターの相談件数

平成20年6月～7月の相談件数 375施設 総数 61,785 平均 174.0 中間値 58.0
 平成23年6月～7月の相談件数 397施設 総数 94,905 平均 242.1 中間値 127.0



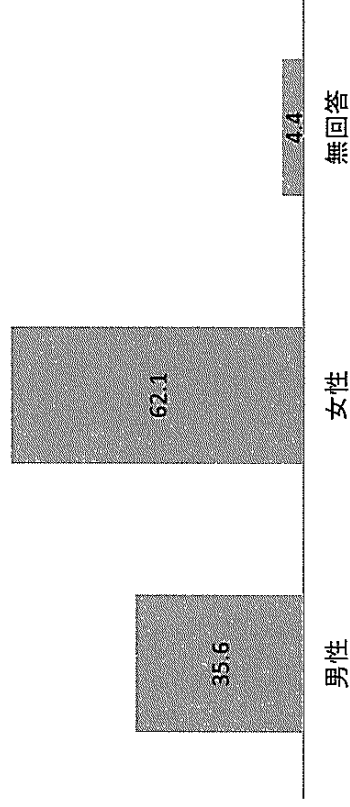
相談件数に占める外部相談の割合

平成23年6月～7月の相談件数 397施設

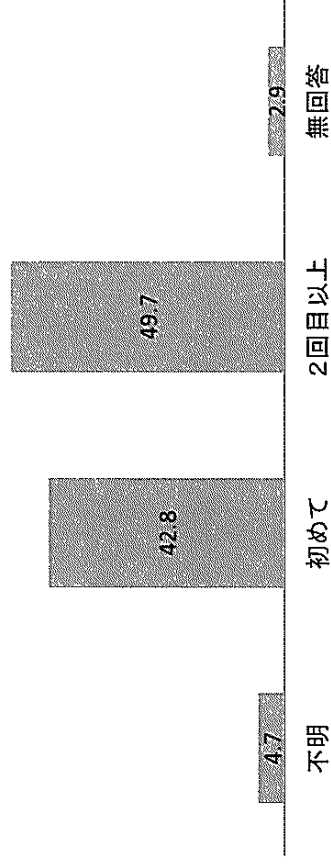


相談者の概要

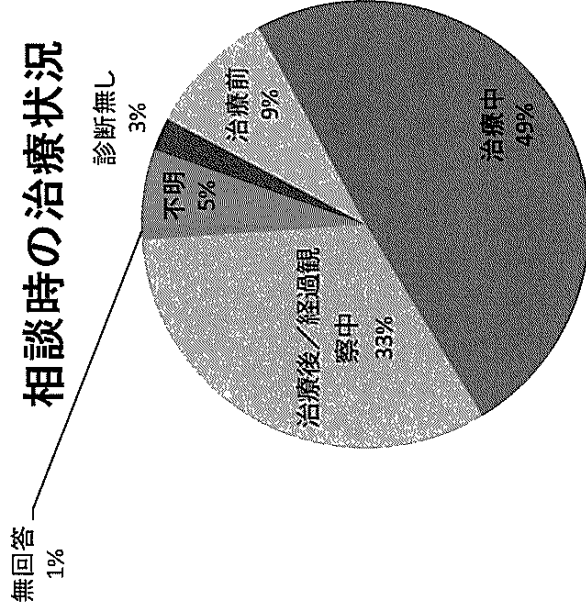
相談者の性別



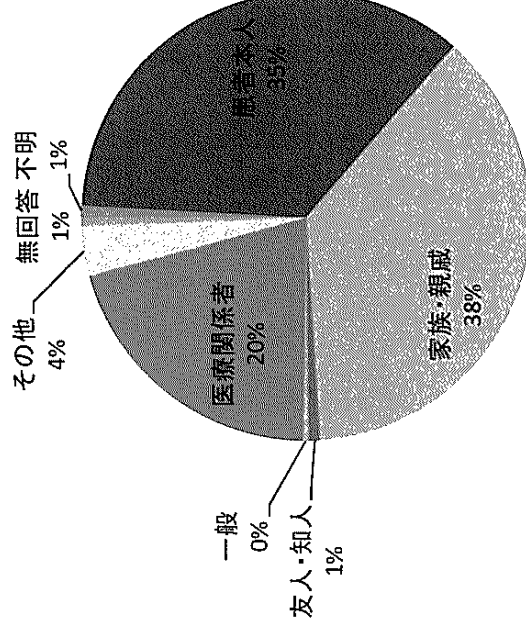
相談者利用回数



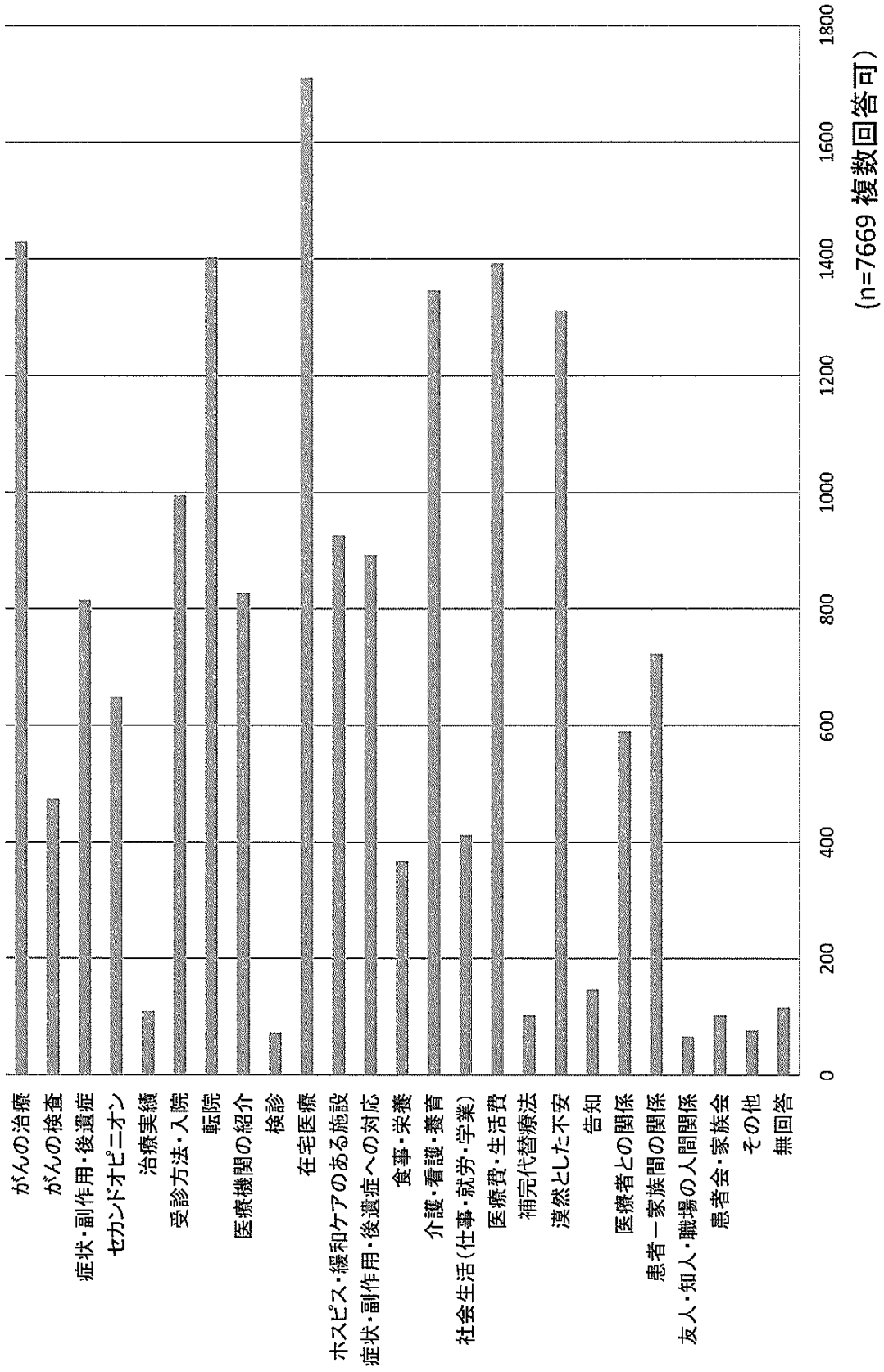
相談時の治療状況



相談者のカテゴリー



相談内容

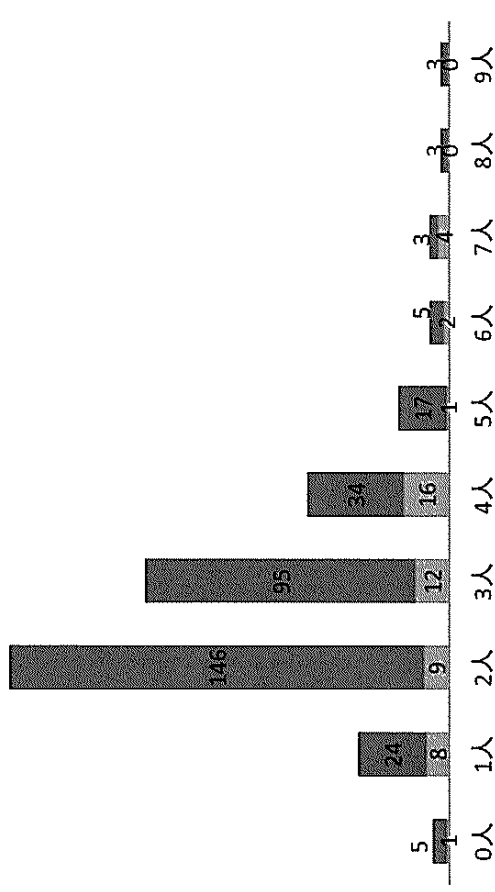


相談支援センター相談員①

要件:① 国立がん研究センターによる研修を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置すること。

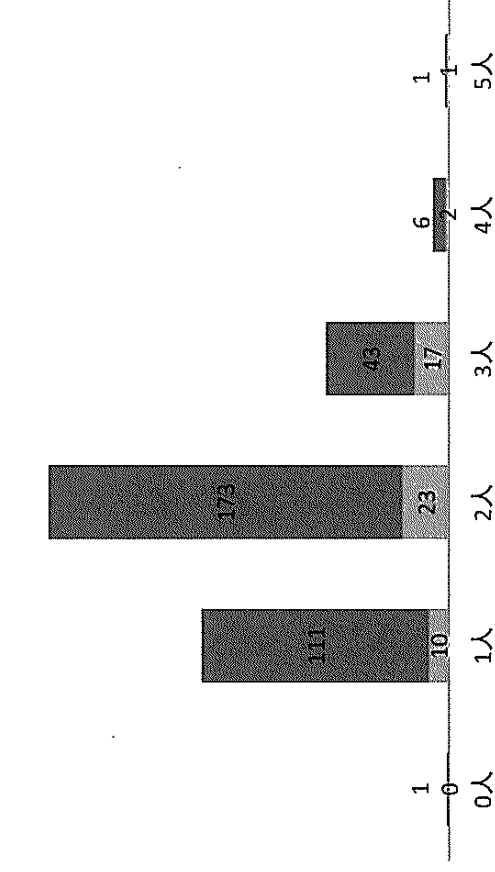
がん対策情報センター相談支援センター相談員
基礎研修会(1),(2)の修了者数

■ 都道府県拠点病院 ■ 地域拠点病院



がん対策情報センター相談支援センター相談員
基礎研修会(1),(2),(3)の修了者数

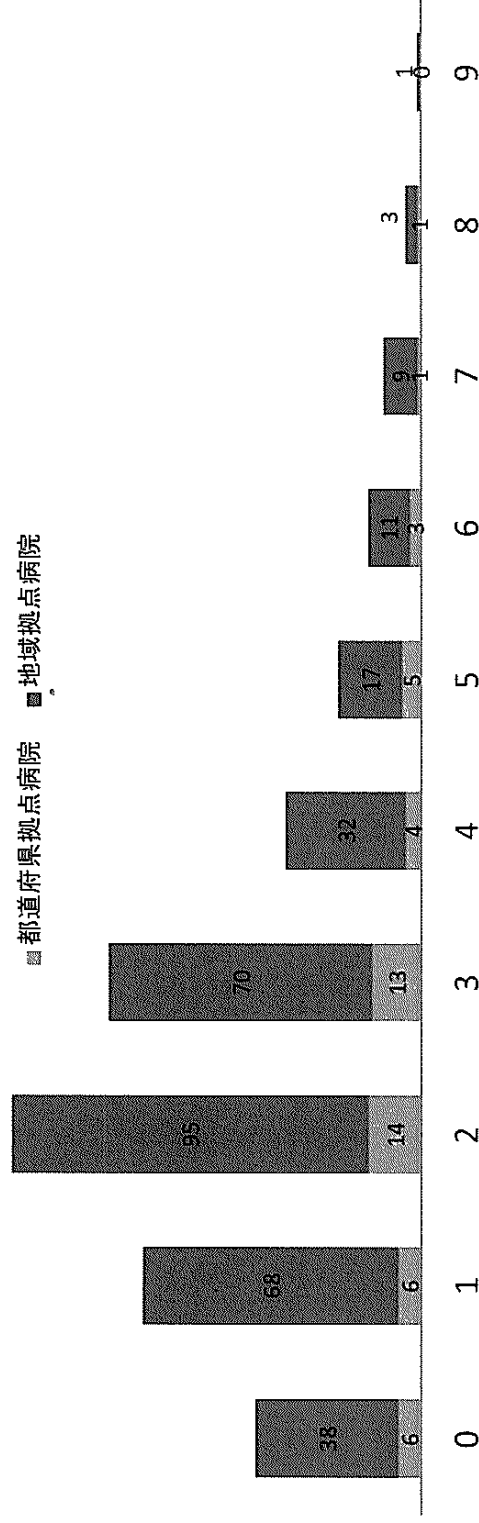
■ 都道府県拠点病院 ■ 地域拠点病院



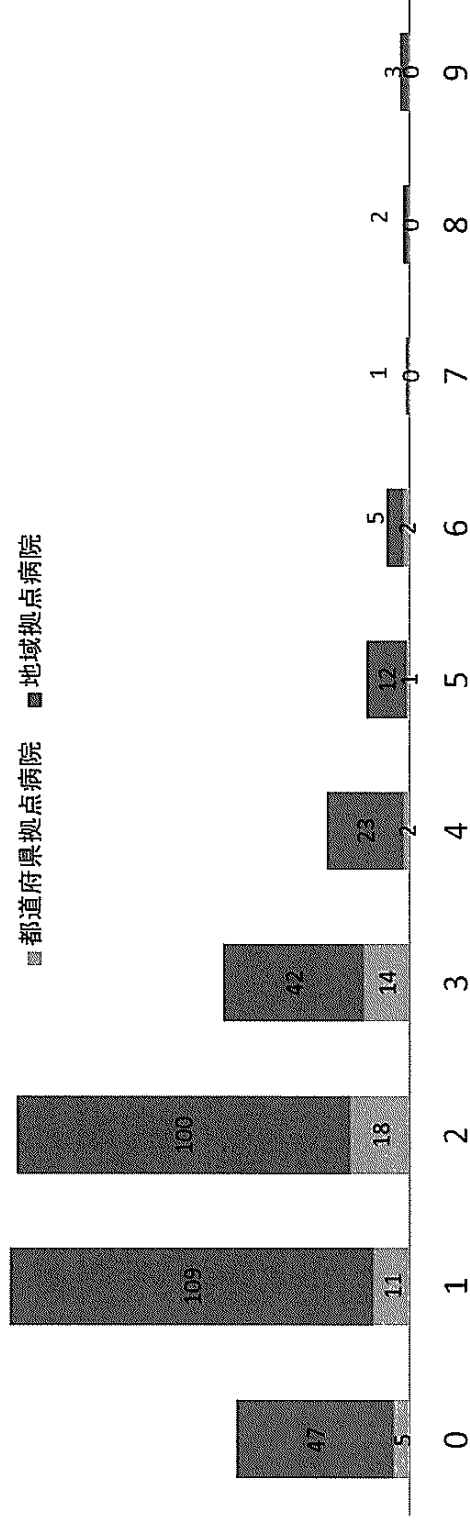
※独立行政法人国立がん研究センター2施設は都道府県拠点病院に算定
がん診療連携拠点病院現況報告(2010年)

相談支援センター相談員②

相談支援センターにおける社会福祉士数



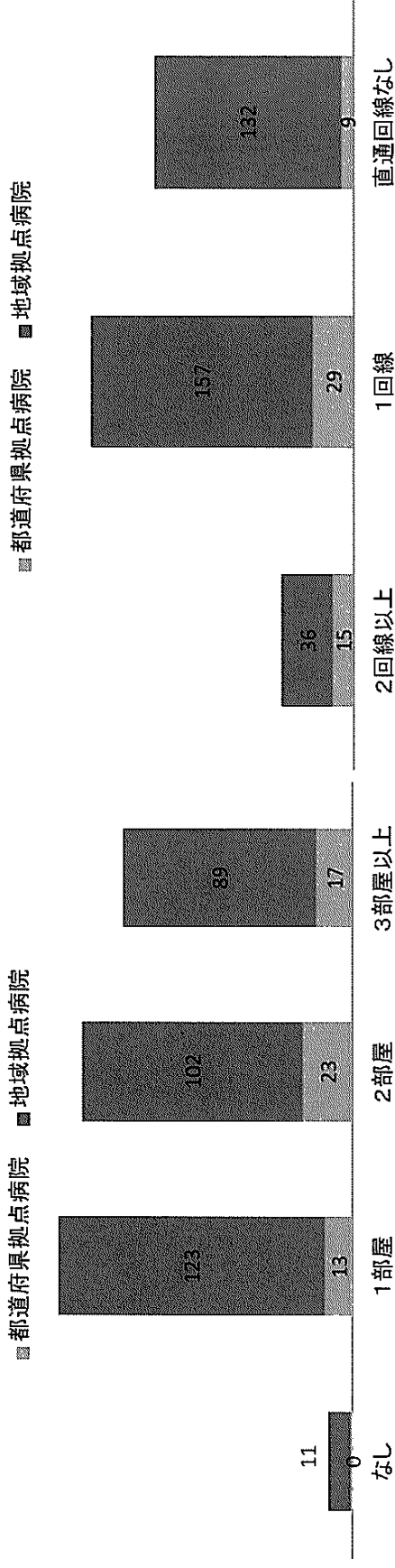
相談支援センターにおける看護師数



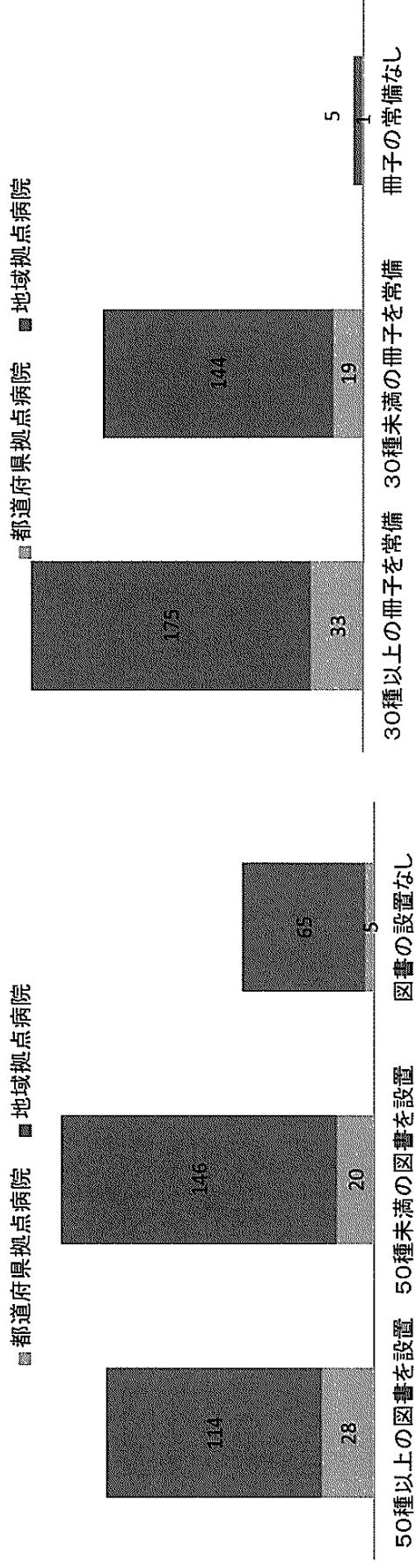
※独立行政法人国立がん研究センター2施設は都道府県拠点病院に算定

相談支援センターの設備

相談専用の個室がある



がんに関する参考図書の設定



厚生労働省委託事業 がん医療水準の均てん化を目的とした医療水準等調査事業 (財団法人 がん集学的治療研究財団 2009年)
 ※独立行政法人国立がん研究センター2施設は都道府県拠点病院に算定

相談支援センターの充実に向けた論点案

- ・相談支援センターの活用を進めるには何が必要か。
(認知度をどのように高めるか。特に地域住民にも活用してもらうにはどのような工夫が必要か。)
- ・相談支援の質を向上させるための取組は何か。
- ・国、都道府県拠点病院、地域拠点病院、それぞれの相談支援の役割はどのようなべきか。
- ・相談支援センター間の連携をどのように図るべきか。
- ・研修プログラムを充実させるためには何が必要か。
- ・患者団体に期待される役割は何か。
- ・医療従事者に期待される役割は何か。
- ・まず、早急に解決すべき課題は何か。

ピア・サポーターに関する 取組について

平成24年9月5日

健康局がん対策・健康増進課

ピア・サポーターの育成について

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業

(事業概要)

がん患者やその家族が行うピアサポーターなどの相談員に対し、相談事業に関する基本的なスキルを身につけるための研修を行うにあたり、全国における相談事業の均てん化を図るため、研修プログラムの策定を実施する。

(創設年度)

平成23年度

(予算)

平成23年度 約4900万円

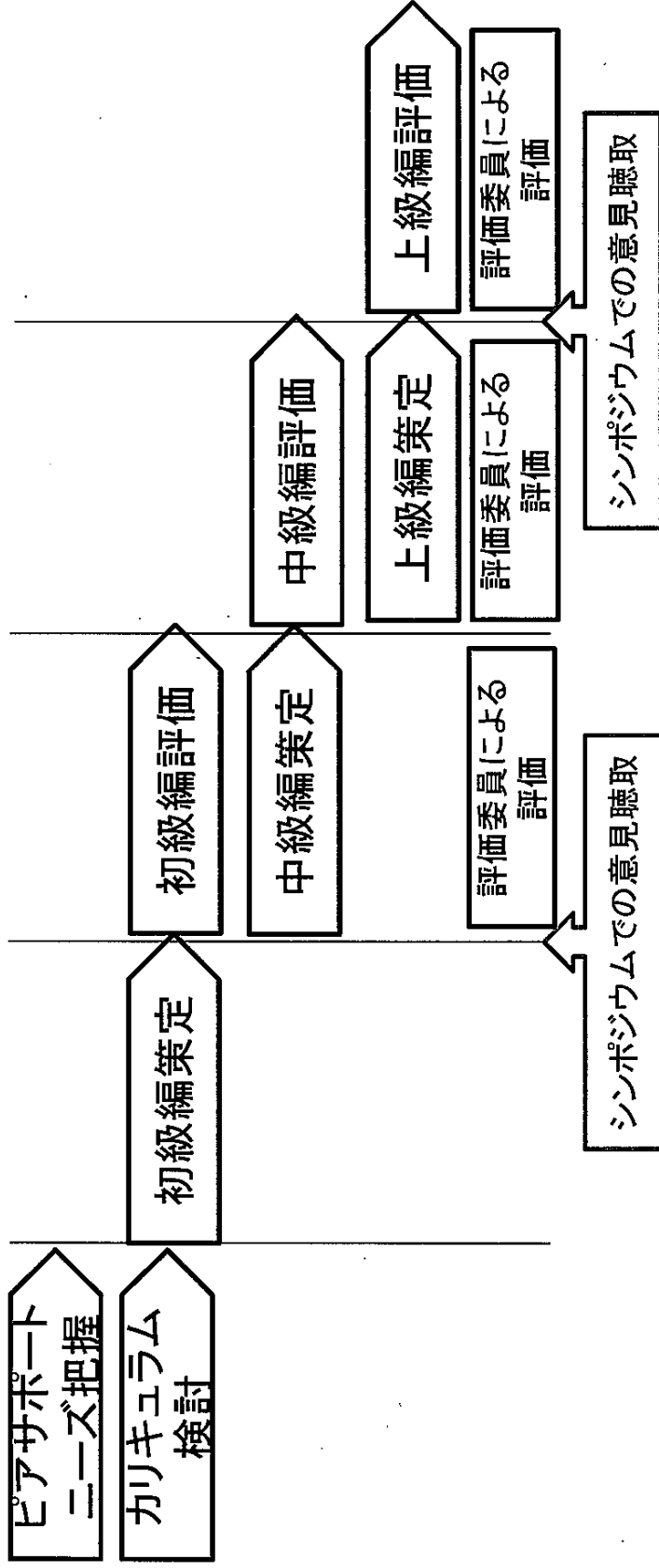
平成24年度 約4900万円

(委託先)

公益財団法人日本対がん協会

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業 スケジュールと内容

2011年下期 2012年上期 2012年下期 2013年上期(予定) 2013年下期(予定)



	初級編	中級編	上級編
対象と内容	初めて学ぶ方を対象に、ピアサポートに関する基本的な内容や、守るべき事柄について理解しやすい内容とする。	初級を学ばれた方や、同程度の経験を有する方を対象に、より踏み込んだ内容や、がんサロン等におけるファシリテートについても触れる内容とする。	初級・中級を学ばれた方や、同程度の経験を有する方を対象に、ピアサポーターのスーパーバイズや、ピアサポーター研修の指導にあたって必要な内容とする。
教材	テキストやDVD、研修の手引き等を作成する。Webによる素材配布や、eラーニングの活用も考慮する。		

がん総合相談研修プログラム策定事業 研修プログラム(初級編)スケジュール

時期	内容
8月28日(火)～ 9月18日(火) 【第1期応募】	<p>□ 研修プログラム(テキスト及び研修用DVD)初級編β版(試行版)研修実施先の公募</p> <p>＜公募方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">◎ 弊会HPに8月28日に掲載： 募集要項および応募用紙◎ 郵送で案内：<ul style="list-style-type: none">・397がん診療連携拠点病院がん相談担当者宛・47都道府県のがん相談担当主管宛・日本対がん協会グループや患者団体などにも郵送予定(8月末～)□ 運営委員会及び事務局で応募のあった団体等から研修先を選考し、実施のための「研修の手引き」とともに、テキストや研修用DVDなどを送付。 <p>□ 研修プログラム(テキスト及び研修用DVD)初級編β版(試行版)研修実施先の公募</p>
9月25日(火)～ 10月9日(火) 【第2期応募】	<p>□ がん総合相談研修プログラム評価委員会 → 研修テキスト及び研修用DVDβ版の評価</p>
9月11日(火)	<p>□ 東京・大阪でシンポジウム開催 → 参加者からの意見集約</p>
9月30日(日)	<p>□ 各研修実施団体における研修実施の終了</p>
12月10日(月)	<p>□ 各研修実施団体より「研修会報告書」および「研修プログラムに対する意見」の提出</p>
12月17日(月)	<p>□ 各研修実施団体より提出された「研修会報告書」および「研修プログラムに対する意見」に対する意見、評価委員会およびシンポジウムで提出された「意見」をもとに、運営委員会において研修プログラム(テキストおよびDVD)の改善案を討議。</p>
12月中	
平成25年1～2月	<p>□ 研修プログラム(テキスト及び研修用DVD)初級編の正式版策定</p>

ピア・サポーター育成事業等に関する都道府県の取組

都道府県名	事業名	事業内容	国の補助	予算額(千円)	実施主体
北海道	ピアサポーター等推進事業	拠点病院が未整備の2次医療圏におけるがん経験者によるがん患者等への相談支援の実施やがん患者同士が語り合う場であるサロンの提供等	有	9,600	補助先
青森	がん患者団体等活性化支援事業	がん患者団体等の活性化を図るためのフォーラムを開催する。また、各患者会代表者や医療関係者等による活動検討会を設置する。	無	2,061	県
宮城	地域統括相談支援センター事業	相談支援、ピアサポーター育成、研修会の開催等	有	4,978	委託先
	がん患者・家族支援機能強化事業	患者会立ち上げに向けた情報提供、支援、指導	有	520	委託先
	がん患者・家族支援対策推進事業	各地域で在宅療養支援を適切に行うための地域連絡会議及び研修会を実施	有	959	県
秋田	がん患者団体活動支援事業	がん患者団体等が行うがんサロンの普及、ピアサポーター研修、普及啓発イベント開催、情報提供などの取組に対し補助	有	1,548	秋田県がん患者団体連絡協議会
茨城	がん患者支援推進事業	県内4か所の地域がんセンターに、がん経験者相談員によるピアサポート窓口の開設及び研修会の開催	無	2,832	茨城県看護協会
東京	がん患者療養支援事業	がん経験者等との連携による相談支援事業(ピアカウンセリング)を実施	無	1,296	拠点病院
神奈川県	がん体験者による、がん患者・家族のためのピアサポート事業	拠点病院2か所で面接相談、病院以外の場所での電話(来所)相談をNPO法人と協働で実施	無	3,170	NPO法人キャンサーネットジャパン
千葉	千葉県ピア・サポート事業	県が養成したピア・サポーターによる相談会(サロン)の実施。新規養成研修、フォローアップ研修の実施。(地域統括相談支援センター事業の中で実施)	有	6,500の一部	委託先
群馬	がんのピアサポーター養成事業	がん患者、家族を中心としたピアサポーターの養成	有	500	県
富山	富山型がん診療体制整備事業(がん患者・家族の療養支援体制整備事業)	県内の乳がん患者会等を対象に、講習会や意見交換会等を開催。	有	400	県
山梨	山梨県がん患者サポートセンター整備事業	がん患者及び家族が、医療面、療養面、心理面の相談をワンストップで受けられる体制の整備	有	1,745	日本対がん協会山梨県支部(山梨県健康管理事業団)
	がん患者ピアサポート研修事業	ピアサポートに関心のある患者等に研修会を行い、ピアサポーターを養成することで、患者同士による相談支援体制の推進を図る。	有	213	県
岐阜	がんピアサポーター養成事業	がん経験者ががん患者を支援することができるよう、がんピアサポーターを養成	有	9,602	県・委託先
静岡	出張よろず相談	医師、看護師等が地域に出向き、患者・家族からのがんに関するあらゆる相談に対応するための相談会を実施	有	985	県立静岡がんセンター
	患者・家族向け学習会	患者・家族に対し、がんの部位別に予防及び症状緩和のための療養支援等の講座の開催	有	898	県立静岡がんセンター
滋賀	ピアカウンセリング養成事業	がん患者及び家族が、医療面、療養面、心理面の相談をワンストップで受けられる体制の整備その家族への相談体制の充実を図るため、ピアカウンセリング養成に對して助成する。	有	600	補助先
	がんサロン事業	がん患者や家族が集まり自分の悩みや相談をし、また仲間作りを行う場の開催。	有	165	県

都道府県名	事業名	事業内容	国の補助	予算額(千円)	実施主体
奈良	がん患者支援及び相談・情報提供事業 ①ピアサポーター養成事業 ②相談支援強化事業	①ピアサポータースキルアップ研修 ②拠点病院のない医療圏の保健所で、がん患者サロン、相談窓口を開設	有	1,342	県
鳥取	がん患者団体活動促進支援事業	患者団体の活動を促進するため患者団体を対象とした研修、意見交換会を開催 ①ピアサポーター研修会の開催、②患者団対リダー意見交換会の開催	有	405	県
島根	がん患者団体ネットワーク支援事業	患者が他の患者の相談支援を行っているがんサロン及びがん患者団体との意見交換会・交流会の開催。がん患者団対、県、がん診療連携拠点病院との意見交換会の開催	無	1,659	県
岡山	がん相談員等資質向上事業	①ピアサポーター養成研修の実施 ②がん相談員研修会の実施	有	7,000	県・委託先
広島	がん患者のQOL維持向上支援事業	がん患者ネットワーク会議の開催、がん患者会への専門家派遣事業	有	1,828	県
山口	がん患者・家族支援事業	患者団体の協力により、がん経験者が患者等の不安や悩みへの相談に応じる「がん患者フレンドコール」を開設する。「広島がんネット」(広島県の癌全般の情報を提供するホームページ)を活用し、がん患者・家族や県民に対し、がんに関する様々な情報を提供する。	有	3,400	「フレンドコール」委託先患者団体「がんネット」県
徳島	患者会との連携事業	未受診者に対する普及啓発や受診勧奨を促進するため、患者会と連携し、がん経験者を講師とする講演会や、がん経験者が普及啓発や相談支援を行うための研修会を開催する。	無	571	県
愛媛	ピアカウンセリング養成事業	がん患者が自らの経験を活かして、相談支援やカウンセリングのサポートができるようなピアサポーターを養成する研修会を行う。	有	200	NPO法人AWAがん対策募金
	町なかがん患者サロン運営事業	がん患者団体が実施する、中心市街地におけるがん患者サロンの設置、運営事業等に助成する。	有	6,290	NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会
	がん相談・情報提供支援事業	ピアサポーター養成研修の開催、拠点病院等で開催されるがん患者サロンへのピアサポーターの派遣、患者・家族の体験談を基にした質問事例集の作成やがんに関する情報の活用方法に関するセミナー開催などのピア・サポーター体制の整備。	有	2,070	委託先
佐賀	がんサロン運営事業	がん患者が集う場を開設	有	6,825	NPO法人クラブスサポート
熊本	がん患者等QOL向上支援事業	がんサロンリダー・サポーター養成研修の開催、ピアサポーターの派遣	有	3,412	県
宮崎	がんカウンセリング養成事業	患者サポートのためのファシリテーター養成	有	316	委託先
鹿児島	がん患者相談支援体制整備	がん患者及び家族への支援を、がん経験者が行う体制を整備する。	有	572	委託先
沖縄	がん医療連携体制推進事業 (地域統括相談支援センター事業)	相談支援体制の強化のため、日本対がん協会が作成するピアサポーター研修プログラムを用いて、がん患者等関係者を対象とした研修会を実施する。また、がん罹患経験を活用した相談支援を行う。	有	11,000	委託先
	がん医療連携体制推進事業 (がん患者支援モデル事業)	がん情報提供体制の強化を図るほか、患者関係者との協働の取組みを行うことにより、地域の患者支援体制の自主的、主体的活動を推進する。	有	10,760	委託先

ピア・サポーター育成事業等に関して良かった点

<p>拠点病院によると、ピア・サポーターが患者と同じような立場のため、医師、看護師よりも相談しやすいといった状況があったとのこと。</p>
<p>患者団体支援のため、県の後援や広報紙への掲載を行っている。患者団体からは「はげみになる」と評価をいただいている。</p>
<p>県の研修を受けたピアサポーターが拠点病院で相談業務に従事している。県の研修を受けたピアサポーターにより相談会(サロン)を実施しており、できるだけ経験部位が重ならないようにしている。自らの経験が語りやすく、相談に訪れた人にも好評である。</p>
<p>患者団体の努力・工夫により質の高いピアサポーターの養成がなされ、全2次医療圏域でがん患者サロンが開催できるようになった。</p>
<p>患者団体が自主的に患者サロン世話人養成講座を開催している。受講者の中には、サロンの世話人として活躍されている方もおられ、ある程度うまくいっている。</p>
<p>ピアサポート研修の内容や開催場所等について、がん患者会やサロン世話人と、事前に意見交換して実施したため、研修参加者の満足度が高かった。</p>
<p>拠点病院で開催されているがん患者サロンへピア・サポーターを派遣し、サロン運営に参加することで、より患者の目線に立った相談支援を実施することができた。</p>
<p>患者サポートのためのファシリテーター養成の場を設定するにより、患者と医療機関との意思疎通が図られた。</p>

ピア・サポーター育成事業等に関する課題

拠点病院からの情報によると、ピアサポーター関係で使用できるスペースが限られ、活動に支障が生じたことがあったとのこと。
ピアサポーター研修プログラムもない中、手探りで進めている状況だが、研修受講者からは継続的かつ実質的な研修を望む声が多く、それにとどこまで対応できるか不安な面もある。ピアサポーターを育成する指導者の養成が課題である。
ピアサポーター研修会の受講者を集めるのが難しい。
相談員の質の確保が難しい。 利用実績が伸びない。
他県の好事例等について教えて欲しい。
国で実施しているピアサポーター養成研修のプログラムがなかなか示されないため、先行して各県独自の取組でピアサポーター養成事業を開始されていると思われる。本アンケート調査の集計結果の提供などを含めて、各自治体の取組に対する支援をお願いしたい。
ピアサポーターの拠点病院への派遣については、病院側で外部の者を受け入れることに抵抗があるため、あまり進んでいない。
相談内容に応じた他部署・他機関(相談支援センター、医療従事者、地域における患者団体等)との棲み分けが難しいのではないか。
ピアサポーター研修事業の新規受講者が減少している。
患者団体の支援については、公平性の観点から、支援する患者団体の選定が難しいと思われる。
研修実施がボランティアベースで活動している患者団体の負担になっている。 ピアサポーターが体調を崩されるなどして活動できなくなるケースがある。
講義内容については、あまり講義を多くしてハードルを上げず、既に世話人として活躍している方の話を聞く方が「自分にもできそうだ」と思ってもらえて良いのではないか。受講者は集まりにくいので、広報紙等を活用している。
参加者の固定化
県内にはNPO等の患者団体がいないため、拠点病院で活動を行うってもらうことを想定しているが、ピアサポーターの必要性を医療従事者に理解してもらうのに苦労している。拠点病院の指定要件にピアサポーターを義務付けるなど、相談支援センターの機能としての位置付けを検討してほしい。
相談員の研修や精神的負担へのフォロー等ができておらず、今後の対応が課題となっている。 ピアサポーター人材の採用・育成ノウハウが無いことから、今後、ピアサポーターを充実させる上で、その手法等が課題と考えている。
H23年度にピアカウンセラーの養成に向けた研修を実施したが、研修終了後の活躍する場所の確保が困難であった。
研修受講者が、毎年、特定の者に限定されている。
研修受講希望者が少ない。
ピアサポーターについては、質をどう担保するのが課題。
患者団体相互の情報交換、交流が可能となる場を設定するよう意見があった。
研修受講者については、従来から活動している患者団体からの参加が多いが、それぞれの経験・相談技術に差があるため、研修会の内容について不満が寄せられることもある。

ピア・サポーターの充実に向けた論点案

- ・ピア・サポーターに期待される役割は何か。
- ・研修プログラムを充実させるためには何が必要か。
- ・研修参加者を確保するため、どのような工夫があるか。
- ・研修修了後の実務経験の場をどのように確保するか。
- ・研修修了後にどのようなフォローアップが必要か。
- ・患者団体に期待される役割は何か。
- ・医療従事者に期待される役割は何か。
- ・まず、早急に解決すべき課題は何か。

がん総合相談に携わる者に対する
研修プログラム策定事業
-ピアサポーターを対象とした研修-

がん総合相談に携わる者に対する
研修プログラム策定事業 運営委員会
委員長 天野 慎介

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業の概要

■事業の目的

都道府県に新たに地域統括相談支援センターを設置し、患者・家族らのがんに関する相談について、心理・生活・介護など様々な分野に関する相談をワンストップで提供する体制を構築するにあたり、がん患者又はその家族の方がピアサポーターなどの相談員に対し、相談事業に関する基本的なスキルを身につけるための研修を行うための研修プログラムを策定し、全国における相談事業の均てん化を図ることを目的とする。

■事業の内容

1. 研修プログラムの策定等
医療関係者、カウンセラーなどの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム策定委員会」を設置し、がん患者やその家族の方などが行うピアサポートに必要なスキルを身につけるための研修プログラムを策定の上、実際に試行的な運用を行うことにより、検証及び必要な改善を行う。
2. 研修プログラムの周知
研修プログラム策定委員会により策定された研修プログラムを報告書にまとめ、国に提出するとともに、各道府県に配布し、かつ、説明会の開催やホームページ等により周知を図る。

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム 運営委員会委員名簿

委員長	天野 慎介	NPO法人グループ・ネクサス 理事長
委員	明智 龍男	名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 教授
委員	大庭 章	群馬県立がんセンター 精神腫瘍科・総合相談支援センター
委員	坂下 千瑞子	東京医科歯科大学医歯学融合教育支援センター 特任助教
委員	桜井 なおみ	NPO法人 HOPEプロジェクト 理事長
委員	松本 陽子	NPO法人 愛媛がんサポート おれんじの会 理事長
委員	若尾 文彦	国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム 評価委員会委員名簿

委員長	小川 朝生	国立がん研究センター東病院 臨床開発センター精神腫瘍学開発部 室長
委員	秋月 伸哉	千葉県がんセンター 精神腫瘍科 部長
委員	石川 睦弓	静岡県立静岡がんセンター研究所 患者家族支援研究部 部長
委員	大野 裕美	名古屋市立大学大学院人間文化研究科 有賀研究室所属(博士後期課程)
委員	小俣 智子	武蔵野大学人間関係学部社会福祉学科 准教授
委員	野田 真由美	千葉県がんセンター 患者相談支援センター がん相談員
委員	花井 美紀	NPO法人 ミーネット 理事長
委員	三好 和子	聖徳大学人文学部心理学科 専任講師

(敬称略、50音順)

公開シンポジウム「がんのピアサポートってなに？」(2011年10月開催)



(シンポジウムのポスター)



■ シンポジウム開催「がんのピアサポートってなに？」

がん総合相談研修プログラム兼定シンポジウム「がんのピアサポートってなに？」

2011年10月23日 シンポジウムの様子を動画でご覧いただけます。
 事例紹介-NPO法人ミナーネットのピアサポート活動 (約18分間)
 花井 美紀 (NPO法人ミナーネット 理事長)



(ホームページでのシンポジウムの動画配信)

- ピアサポートの現況やあり方に関して患者や医療者の皆さまより意見を集約
- ピアサポートや研修プログラムに関する各地での多様なあり方やニーズが明らかに

ピアサポーターの例(千葉県がんセンター・患者相談支援センター)

ピア・サポーターズサロンは のご案内

「他の患者さんと話してみたい・・・」と思う事はありませんか？ピア・サポーターズサロンとは、がん経験者がピア・サポーターとして患者さんやご家族の悩みを聞いたり、体験をお話する会です。ピア・サポーターは千葉県の養成講座を受講・修了しています。

日時：7月30日(月) 10時～15時
場所：千葉県がんセンター
 1階 研修室(売店奥)
 お問い合わせ：千葉県がんセンター患者相談支援室
 千葉市中央区仁戸名町666-2
 043(264)5431

当日参加予定のピア・サポーター

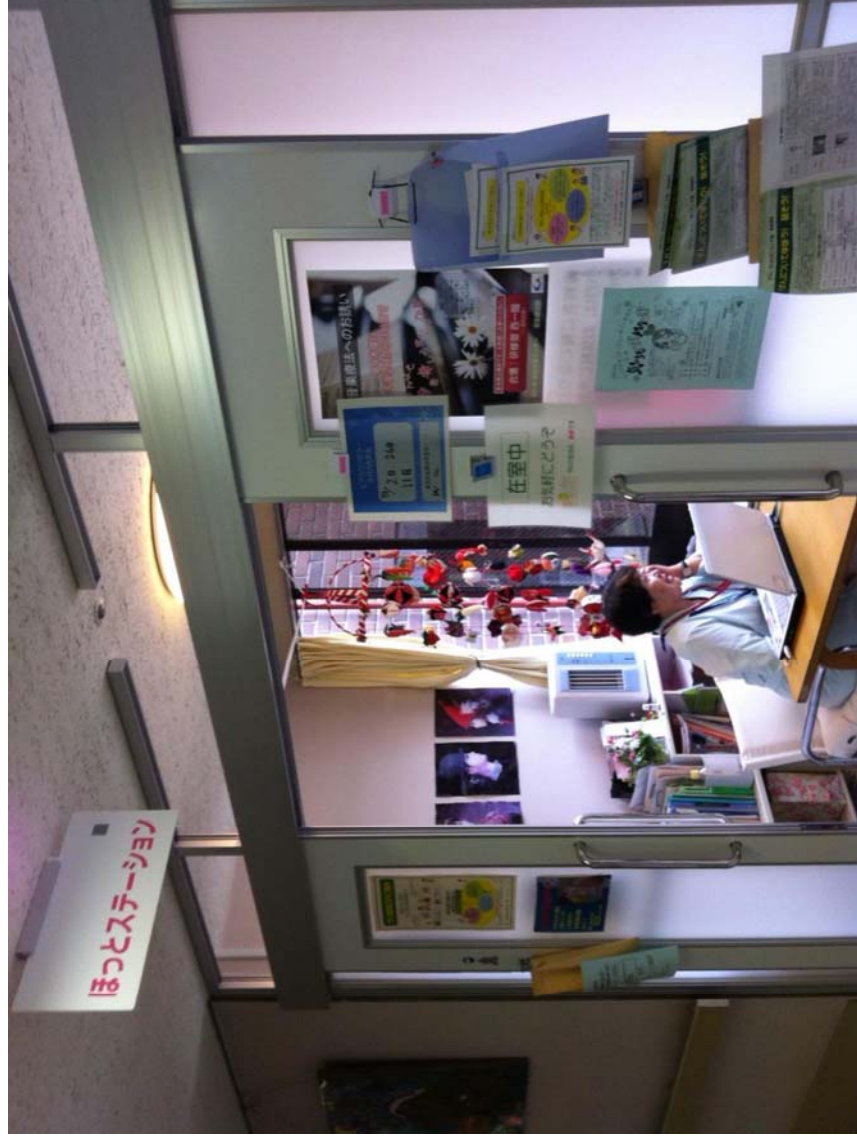
胃がんと卵巣がんで手術・抗がん剤治療経験がある。
乳がんと肺がんで手術・抗がん剤・放射線治療を経験。
乳がんで手術と抗がん剤治療を経験した「仲間」としてお話したい。
酒腫がんで手術を経験。ストマを装着しているが、腸通に生活している。
乳がんで手術・抗がん剤治療を経験。仕事や趣味の毎日を元気に過ごしている。
酒腫がんを経験。開腹手術7回経験した。
乳がんと酒腫がんを経験し、気持ちを言葉にする大切さ、話を聴くことの意味を知った。

主催：千葉県地域連携相談支援センター

**開催時間内は
出入り自由です。
ご都合のよい時
間にお越しくだ
さい。また、次
の開催は9月
26日(水)です。**

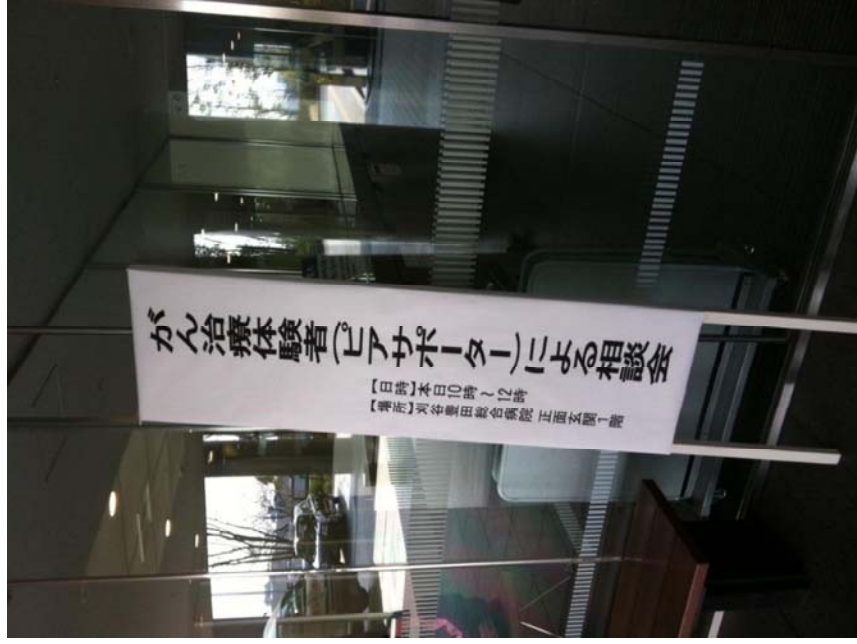
(ピアサポーターによるがんサロン)

- ・ 看護師、MSW、ピアサポーターが連携してがん患者や家族に対する支援を行う
- ・ 県主催による研修を受けたピアサポーターが参加する、がんサロンを院内で開催



(ピアサポーターによる相談スペース)

ピアサポートの例（NPO法人ミーネット・愛知県）

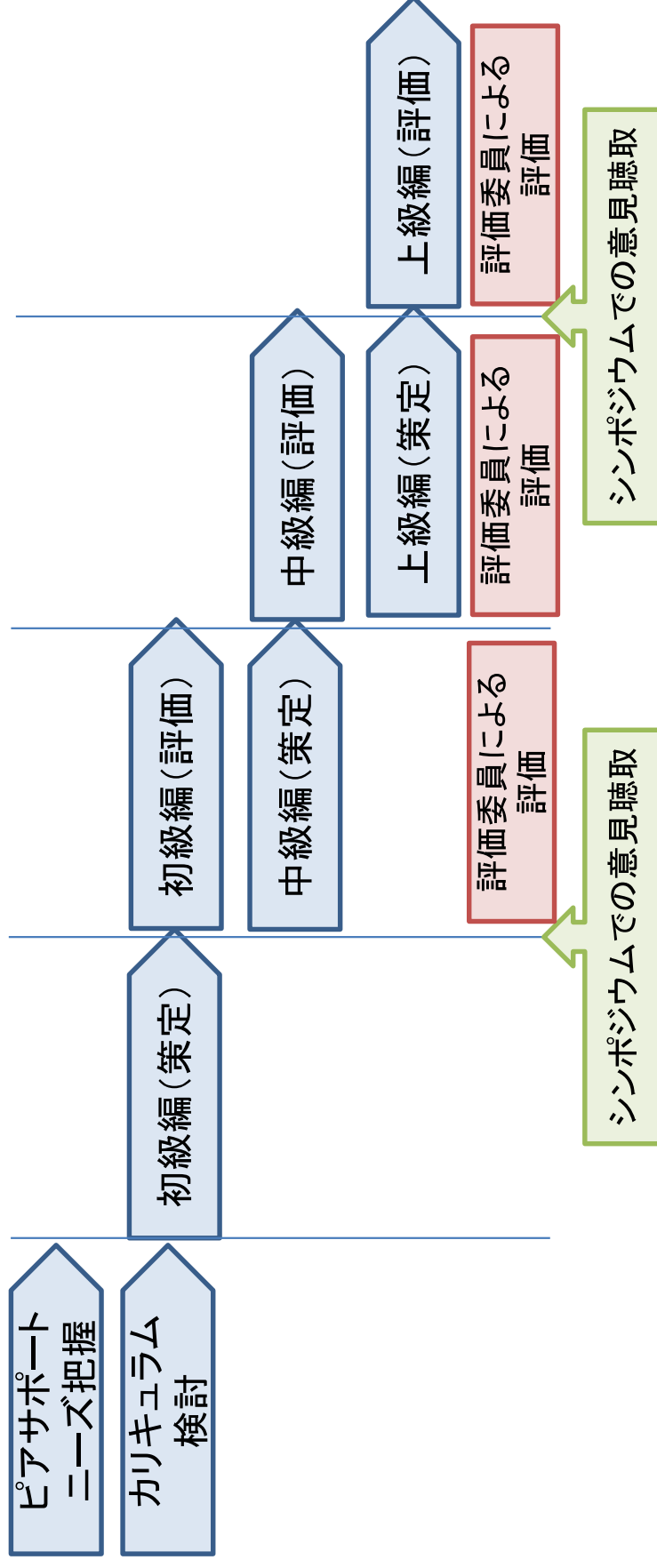


（医療法人豊田会刈谷豊田総合病院でのピアサポーター相談会）

- 医療機関と連携し、院内ロビー等のオープンスペースなどでピアサポート活動を実施
- NPO法人主催による、およそ90時間の研修を受けたピアサポーターが相談対応

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業 スケジュールと内容

2011年下期 2012年上期 2012年下期 2013年上期(予定) 2013年下期(予定)



	初級編	中級編	上級編
対象と内容	初めて学ぶ方を対象に、ピアサポートに関する基本的な内容や、守るべき事柄について理解しやすい内容とする。	初級を学ばれた方や、同程度の経験を有する方を対象に、より踏み込んだ内容や、がんサロン等におけるファシリテートについても触れる内容とする。	初級・中級を学ばれた方や、同程度の経験を有する方を対象に、ピアサポーターのスーパーバイズや、ピアサポーター研修の指導にあたって必要な内容とする。
教材	テキストやDVD、研修の手引き等を作成する。Webによる素材配布や、eラーニングの活用も考慮する。		

研修プログラム(初級編・β版)研修テキスト目次

① はじめに

② ピアサポートとは何か？

- 1) ピアサポートの定義
- 2) ピアサポートの重要性と意義
 - (1) ピア(仲間)が支援することの意義
 - (2) がんによる体験の共有
 - ① 治療のこと
 - ② 気持ちのこと
 - ③ 生活のこと
 - (3) 「体験を共有し、ともに考える」ことの意義
 - ① 安心感を持ってもらう
 - ② 体験に基づく情報の提供
 - ③ 仲間との出会い
 - ④ 自信の獲得
- 3) ピアサポートの限界
- 4) ピアサポートの活動内容、活動の場
 - (1) ピアサポートの活動内容
 - (2) ピアサポートの活動の場所
 - (3) 記録の取り方
- 5) ピアサポートにとって大事なこと
 - (1) ピア(仲間)を大切にすること
 - (2) ピア(仲間)の求めていることを考える
 - (3) 個人情報を守る
 - (4) 医療行為に関する内容に踏み込まない
 - (5) ピアサポートの影響と責任を考える
 - (6) 活動を振り返り、スキルアップを図る

③ より良いコミュニケーションのために

- 1) 話しを聞く際に配慮すること
 - (1) 服装
 - (2) あいさつ、自己紹介
 - (3) 個人情報保護について
 - (4) 座り方・視線
 - (5) 言葉以外のメッセージにも配慮しましょう
- 2) ピアサポートに役立つ会話のヒント
 - (1) よく聴いていることを伝える
 - (2) 自由に答えられる質問の効果

④ 知っておきたい基礎知識

- 1) ピアサポーターが知っておくべき地域の情報
 - (1) がんに関するあらゆる相談ができる窓口
「相談支援センター」
 - (2) 孤独感や不安に対応してくれる
「がんサロン」「患者会」
 - (3) お金に関する悩みへの対応
 - (4) 日常生活に関する悩みへの対応
 - (5) 仕事に関する悩みへの対応
- 2) 医学的知識(がんの基礎知識)
 - (1) がん診療の流れ

研修プログラム(初級編・β版)研修テキスト目次 (続き)

(2) 各種がんの基本的知識

- ① 胃がん
- ② 大腸がん
- ③ 肺がん
- ④ 乳がん
- ⑤ 肝がん

(3) がん治療の3本柱(手術、放射線、薬物)

- ① 手術療法
- ② 放射線療法
- ③ 薬物療法

(4) 精神腫瘍学について

- ① サイコオンコロジー(精神腫瘍学)とは
- ② がん患者の心理的反応ー通常反応
- ③ がん患者の精神症状の頻度
- ④ がん患者の自殺ーうつ病の見過ごし
- ⑤ 心のケアについて相談するには
- ⑥ 専門家による心のケア

(5) 緩和ケアについて

- ① 緩和ケアとは
- ② 緩和ケアを受け取る時期
- ③ 緩和ケアを受け取るには

(6) 臨床試験と先進医療制度について

- ① 臨床試験(治験)とは
- ② 種類と段階
- ③ 利点と不利な点

④ 情報の集め方

- ⑤ 臨床試験に参加するには
- ⑥ 先進医療制度とは

(7) 補完代替医療について

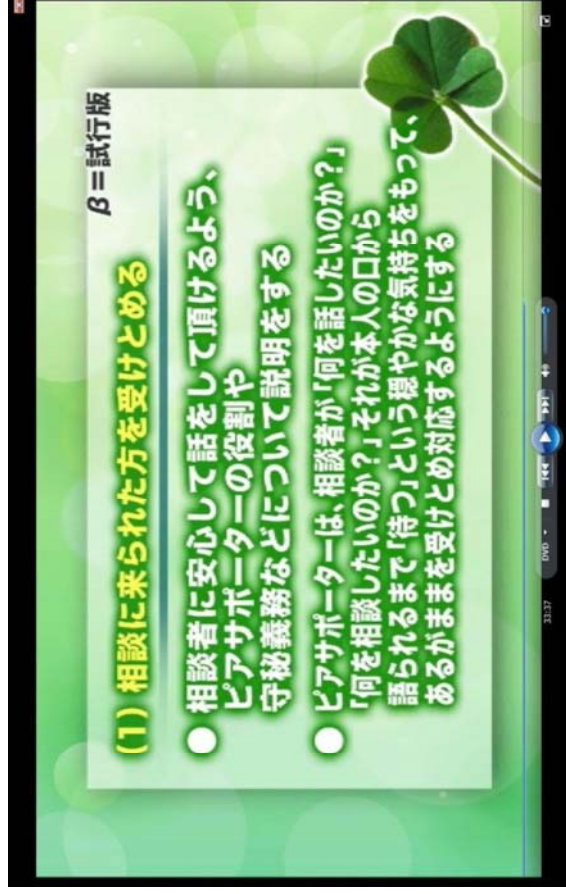
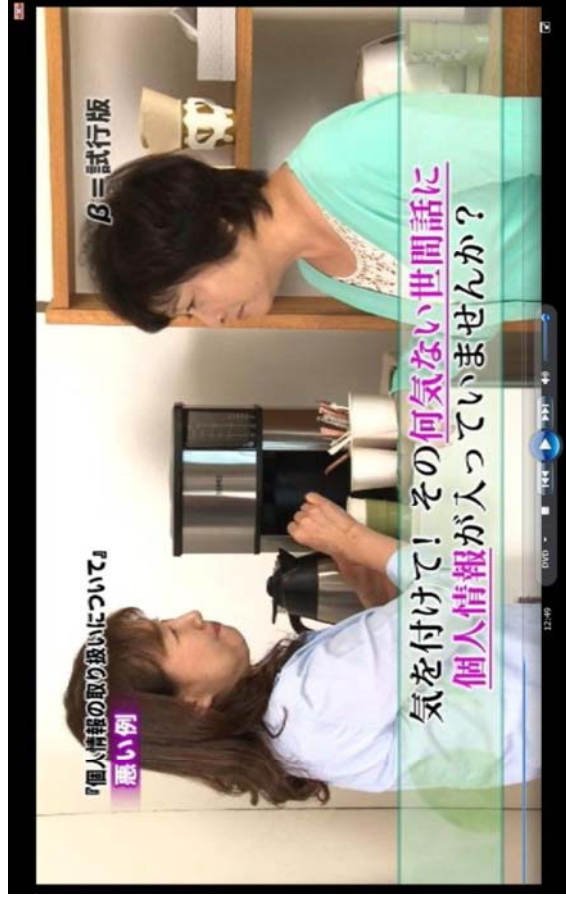
- ① 補完代替療法とは
- ② 情報を集めるには
- ③ 有効性と安全性の評価
- ④ 必ず担当医に相談しましょう
- ⑤ 科学的な証明と効果は？



【模擬相談(シナリオ)】 DVD収録

- 1) ピアサポートにとって大切なこと
 - (1) 相談者を大切にすること
 - (2) 相談者の求めていることを意識すること
 - (3) 個人情報を守る
 - (4) 医療行為に関する内容に踏み込まない
 - (5) ピアサポーターの影響と責任を考える
 - (6) 活動を振り返り、スキルアップを図る
- 2) より良いコミュニケーションのために
 - ① 相談に来られた方を受け止める
 - ② 話に耳を傾けること
 - ③ 自分の体験を話す
 - ④ 最終的に判断をするのは相談者自身
 - ⑤ 医療・福祉の専門家への紹介

研修プログラム(初級編・β版)研修DVDより



がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業 ホームページ

がん患者さんの相談や悩みと同じ目線で答えるがん経験者としてのピアサポーターを養成するための研修プログラムを作る事業

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業

最新情報

- 2012.08.28 「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム初級編」(β版)研修要綱の募集
- 2012.08.17 第4回がん総合相談研修プログラム運営委員会 議事録を掲載しました
- 2012.08.13 シンポジウム開催「考えよう！がんピアサポート研修プログラム」
- 2012.07.18 第3回がん総合相談研修プログラム運営委員会 議事録を掲載しました
- 2012.06.18 第2回がん総合相談研修プログラム運営委員会 議事録を掲載しました

2012年の最新らせ ▶

がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム

9月30日

国際研究交流館
大阪府立成人病センター
本館6階講堂

(ホームページ)

参加無料
(東京)定額180円
(大阪)定額120円

がん総合相談研修プログラム策定シンポジウム

考えよう！
がんピアサポート研修プログラム

国際研究交流館
大阪府立成人病センター
本館6階講堂

(シンポジウムポスター)

- ・ 運営委員会(月1回程度開催)や評価委員会(年3回程度開催)の議事録等の公開
- ・ ピアサポートに関する研修プログラムや各地の事例に関する情報の公開
- ・ 2012年9月に研修プログラムへの意見集約のための公開シンポジウムを開催